

# 行動計量学会報

日本行動計量学会事務局  
東京都港区南麻布 4-6-7  
統計数理研究所 村上研究室

## 21 世紀は行動計量学の時代である

狩野 裕

21 世紀は情報と宗教の時代といわれる。情報とは「コンピュータ」である。宗教を「こころ」ととらえれば、「コンピュータ」+「こころ」=「計量心理学」である。宗教を「社会」ととらえれば、「コンピュータ」+「社会」=「計量社会学」である。つまり、21 世紀は行動計量学の時代である。

戦後、計量的方法が脚光を浴びたのは工業の分野であった。いわゆる品質管理(QC, Quality Control)である。「安かろう悪かろう」と言われた made-in-Japan の工業製品が、「Japanese と いえば高品質・高性能製品の代名詞」と言われるまでになったのは、主に米国で開発された統計的品質管理(SQC)を適用することで、不良品を減らし安定した(ばらつきの少ない)製品を作ることになったからである。品質管理の分野では、現在、全社的品質管理(TQC)や総合的品質管理(TQM)へと、対象をモノだけでなくヒトや社会を巻き込んだ形へと発展している。

近年、計量の分野で大きな柱になっているのは生物統計学である。喫煙と肺がんの関係を探る疫学研究や、最近のトピックでいえば、マスコミをにぎわせた O-157 の原因同定などが分かりやすい。O-157 の例では、原因同定された物質から菌が見出されなくとも、計量的方法で結論が下される。医学・生物統計学の主なテーマは因果分析といえるが、究極の目的は、ヒトの生活の質(QOL)を向上させることではないか。QOL 研究はターミナルケアの文脈で語られることが多いが、人生全体にわたった問題である。QOL は行動計量学の主要テーマである。

現象を理解するためにモデルが作られる。モデル化によって捨象された部分は「誤差」となる。「誤差」が大きすぎるモデル構築は意味をなさないし、「誤差」が小さい現象は計量分析をするまでもない。計量的方法が力を発揮するのは、現象の背景にある理論がある程度は整備されているが、依然として不透明な部分が多い状況である。つま

り、学問が進歩し、そのような状況になった分野から計量的方法が注目されるのである。対象がモノである分野では、そのような時期は比較的早めに訪れる。工業での QC や生物統計学の隆盛はこの意味で納得できる。

では、21 世紀の計量はどのような分野に焦点が当てられるのであろうか。それは、冒頭で述べたように、ズバリ行動計量学であると予想する。理由は二つある。一つ目は、21 世紀の科学や文化はヒトを抜きにして語るができなくなることである。モノを対象にしてきた QC もヒトや社会を対象とする TQC や TQM にたどり着く。医学・生物学研究の究極の基準変数は QOL である。

二つ目の理由は、今まで行動計量学がそれなりに扱ってきた分野での基礎理論が、来世紀には更に発展すると期待されることである。心理学・教育学・社会学などでの計量的方法は、道具立てが少ないこれらの分野では、それなりに成果をあげてきたのは事実である。しかし、方法論者からの批判は少なくない。上記で述べた「誤差」が大きすぎるという批判である。しかし、私は、これらの分野の基礎理論の発展が、計量的方法がより活躍できる分野にするのではないかと考えている。そして、計量的方法によってその理論がさらに発展させられることを期待している。

自然科学の中核である生命科学、遺伝子操作、クローン羊や牛、体外受精、臓器移植などの分野でも、当面確立すべき技術が達成されると、研究対象はヒトに移る。このような分野でも、行動計量学がどのような貢献ができるか、また、貢献をするためには、行動計量学の基礎をささえる統計学に加えてどのような方法論を発展させないといけないのか。21 世紀に向けてその価値が試されている。

(かの ゆたか、大阪大学人間科学部、行動計量学会理事)

## 奨励賞 新設!

元行動計量学会理事長肥田野直先生より寄付された学会賞資金により、このたび、現在の学会賞である、功績賞、優秀賞（「林知己夫賞」）に加え、若手研究者（原則として30歳以下）の育成をめざすという意味で、「奨励賞（「肥田野直賞」）」を新設することにしました。今年度から、功績賞、優秀賞に加え、奨励賞を総会の席上で表彰することに致します。

なお、「学会賞についての申し合わせ」の変更点は以下の通りです。

- 1) 学会賞の内容について
- ②の下に、以下の文面を追加する。  
本学会は以下の賞を設定し、1999年より授賞を開始する。
- ③日本行動計量学会 [奨励賞]  
原則として30歳以下の研究者で、日本行動計量学会発行の学術雑誌（「行動計量学」および「Behaviormetrika」）、または毎年行われる行動計量学会大会において、今後に期待される意欲的な研究業績を発表した個人を対象とする。毎年、原則として1件を授賞する。受賞者は、総会において表彰され、1件3万円の副賞が授与される。なお、奨励賞のニックネームは「肥田野直賞」とする。
- 3) 対象とする研究業績について
- ②の文面の後に以下の文面をつける。  
「ただし、奨励賞の場合の業績には、行動計量学会大会の研究発表を含めるものとする。」

日本行動計量学会第27回大会の参加申し込み受付中！  
詳しくはこちらをご覧ください。

日本行動計量学会第27回大会  
web ページ

<http://www.f7.ems.okayama.ac.jp/~bsj99/>

## ★チュートリアルセミナーの案内★

第27回大会の前日に下記チュートリアルセミナーを開催いたします。

### 「行動計量学に役に立つフリーソフトウェア」

日 時：1999年9月19日(日) 13:00-17:00

場 所：岡山商科大学

講 師：山本義郎（北海道大学）

このセミナーでは、統計処理に利用可能なフリーソフトウェアや有料のソフトに対するフリーのマクロなどについて、入手法・利用方法などを紹介するとともに、参加者一人一人がコンピュータを操作し、一部のソフトウェアを体験してもらいます。参加者一人につき一台のコンピュータを用意します。なお、アシスタントを配置しますので、コンピュータの操作が初めての方でも遠慮なくご参加ください。詳細は後日別便ならびにホームページでご連絡いたします。

なお、このセミナーに関する問い合わせは立教大学山口和範(kyamagu@rikkyo.ac.jp)まで。



## 平成11年度の小グループ研究会

### 1. 進化ゲーム理論研究会（新設）

代表者/連絡先：小林盾

E-mail: PXH04145@nifty.ne.jp

〒168-0081東京都杉並区宮前3-6-23

日本学術振興会特別研究員

### 2. 行動科学研究会（継続）

代表者/連絡先：海野道郎/木谷忍

E-mail: skitani@mail.cc.tohoku.ac.jp

981-8555仙台市青葉区堤通雨宮町1-1

東北大学大学院農学研究科資源環境経済学専攻

### 3. 計量社会学研究会（継続）

代表者/連絡先：村瀬洋一

E-mail: murase@rikkyo.ac.jp

〒171-8501東京都豊島区西池袋3-34-1

立教大学社会学部

# 日本行動計量学会講習会 「新しい多変量解析」

日本行動計量学会運営委員会  
担当委員：岩崎 学

日本行動計量学会運営委員会では、昨年のロジスティック解析講習会に引き続き、今年は標記講習会を下記の要領で開催します。

多変量解析は、古典的な重回帰分析や因子分析等に加え、近年の共分散構造分析（構造方程式モデル）の登場により、更にその適用範囲を広げつつあります。そこで、この講習会では、下記の書籍を基に、1人1台のパソコンによる実習を含め、古典的な多変量解析法から共分散構造分析に至るまでを分かりやすく解説します。奮ってご参加ください。

**日 時**：1999年7月16日（金）10:30～16:30  
**会 場**：SPSS セミナールーム（東京：恵比寿プライムスクエアタワー10階）  
**講 師**：岩崎学（成蹊大学）、萩生田伸子（埼玉大学）  
**参加費**：学会正会員 12,000円  
非会員 20,000円  
学 生 5,000円（含：大学院生）

（ご自身のパソコンをお持ちいただいた方は2,000円減額します。備考参照のこと）

**定 員**：20名程度（申込先着順、ただし正会員を優先）

**参考書**：各自ご持参いただくか、当日会場でも割り引き価格で販売します（無くても受講できます）  
○狩野 裕 著（1997）「AMOS, EQS, LISREL によるグラフィカル多変量解析 一目で見る共分散構造分析」現代数学社（本体2,600円）

○山本嘉一郎・小野寺孝義 編著（1999）「Amos による共分散構造分析と解析事例」ナカニシヤ出版（本体3,500円）

**備 考**：当日に日本行動計量学会（学会費：8,000円/年）への入会申し込みをされた方は「学会正会員」扱い致します。なお、講習会終了後簡単な懇親会（有料：実費程度）も予定しておりますのでご参加ください。また、関 友作・萩生田伸子・高柳良太（共著）「SPSS for Windows のやさしい

使い方 基礎編」（株式会社アトムス）等の書籍も当日割引価格にて販売します。

**申込方法**：下記の岩崎まで郵便、ファックスあるいは電子メールにてお申し込みください。

〒180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1  
成蹊大学工学部経営工学科 岩崎 学  
FAX：0422-37-3871  
E-mail：iwasaki@is.seikei.ac.jp

お申し込みの際、氏名、所属および連絡先、（正会員・非会員・学生）の別、パソコンの（持参・持参せず）、懇親会への（参加・不参加）を明記して下さい。なお、SPSSおよびAMOSがインストールされていないパソコンをお持ちの方は当日のみインストールいたします。当日早めにおいでいただくこと、およびハードディスクの空き容量などの制限（といっても100MBくらいですが）がありますので、もし希望の方はその旨岩崎まで事前にお知らせ下されば個別に対応します。参加が確定次第、会場の地図など詳しい情報を折り返しご連絡致します。

参加費は当日受付にてお支払いいただきます。

**照会先**：本講習会についてのお問い合わせは、上記の岩崎か、あるいは下記までお願いします。

SPSSプロダクト営業部（担当：武田千夏）  
TEL：03-5466-5639, FAX：03-5466-5621,  
E-mail：takeda@spss.co.jp

## 日本行動計量学会「春の合宿セミナー」 報 告

運営委員長：岡太彬訓（立教大学社会学部）  
企画責任者：狩野裕（大阪大学人間科学部）

平成11年3月29日～31日の3日間、大阪大学人間科学部にて春の合宿セミナーが開催されました。本セミナーは、昨年度東京大学で始められ今回で二回目となり、心理学・社会学・教育学など主に社会科学を専攻する大学生・大学院生・研究者、そしてより広く統計ユーザーの方々に、少しでも計量的方法を理解していただくという目的で計画されています。講師の先生方のボランティア精神に支えられ、安い参加費、集中的に、楽しく、他分野の研究者、例えば方法論者と応用の研究者との交流、などが本セミナーの特色です。そして、これらを円滑に図るため合宿形式をとっています。特に、学部生・大学院生の参加を奨励するため、今回は宿泊補助をいたしました。結果と

して、209 名（学生 107 名，社会人 102 名）の参加を得ました。

具体的なプログラムや参加者アンケート集計結果などは以下の URL へお越しください。

<http://koko15.hus.osaka-u.ac.jp/~kano/seminar/gasshuku/index1.html>

今回この企画を担当して、このようなセミナーの需要は高いと感じました。ただ、関心を持っている人の専門分野が多岐にわたるため、情報を如何に流すか、参加者のニーズを如何に探るかが難しいと思います。今回は、Web による宣伝といくつかのメイリングリストへの投稿によって情報を発信しました。できるだけ多くのメイリングリストを利用することが効果的だと思います。

参加者の方々を代表して 3 名の方々に感想を書いてももらいました。

-----  
東北大学大学院文学研究科（行動科学研究室）

M2 丸山勇治

大阪大学人間科学部において行われた第 2 回春のセミナーでは、各種統計手法や研究に役立つツールについての講義を受講することができただけでなく、懇親会等ではなかなかお会いすることのできない方々と親睦を深めることができ、私にとっては非常に有意義なセミナーとなりました。資料集によれば「『ユーザー』の需要に的確に応え、かゆいところに手が届く勉強会を目指しました」ということでしたが、統計分析に関する私の知識不足のせいもあって、統計手法の講義は講義によって難易度にばらつきがあり戸惑うこともありました。講義対象者のレベルをあらかじめ提示していただければ良かったのではないかと存じます。今回のセミナーの中で私にとって「かゆいところに手が届く」講義は、大阪大学の吉田先生による「JavaScript による統計解析」の講義でした。大学の社会統計学などの講義では、統計分析の手法を理解するために自分で電卓をたたいて計算していました。しかし、計算が複雑になり電卓では手におえないような統計手法になると、統計ソフトで計算するせいか今ひとつ理解できず使いこなせていないということがあります。このため電卓に代わるツールを探していましたが、吉田先生の講義を拝聴することができたおかげで、JavaScript を使えば電卓代わりに少し複雑な計算

ができることがわかったのは大きな収穫でした。私のようないわゆる文系の院生にとって、行動計量学会の合宿セミナーは統計手法の理解を深めるまたとない機会ですから、今後もセミナーが続けられることを切に希望いたします。最後になりましたが、今回のセミナー開催のために尽力されたスタッフの皆様には御礼申し上げます。ありがとうございました。

-----  
女子栄養大学（食品学第一研究室）

助手 真柳麻誉美

昨年引き続き、今年も春の合宿セミナーに参加させていただきました。参加者も昨年の約 2 倍ということで、活気に満ちた 3 日間であったように思います。企画・運営についても、昨年にも増して、より計画的・組織的に動いているといった印象を受けました。私は食品関連の学会にいくつか席を置けていますが、このような「若手を育てる」という明確なコンセプトのもとに、暖かくて良心的なセミナーを開いている学会を他に知りません。参加者の顔ぶれを見ても、非常に多彩な上、私のように目の色も髪の色も違う分野の人間にも皆さん好意的に接して下さいました。今回の合宿で行動計量学会の懐の広さを実感し、学会入会を決意した次第です。講義の方は、コースによっては消化不良ぎみのものもあったというのが正直な所です。できましたら、難易度とともに、想定する対象者（学生か教育者か、実務家か研究者か）等が事前に明確になっていると、講義選択の目安となり（消化不良を避けるためにも）より良いのではないかと感じました。講義の全体的な感想としては、「メーカー」から「ユーザー」という趣旨があった分だけ、逆に「メーカー」と「ユーザー」の乖離が日の下にさらされたように感じました。もしささやかな提案ができるのであれば、言葉も興味も理解も違う「メーカー」と「ユーザー」をつなぐ、通訳のできる「ヘビーユーザー」による講義も設けていただければ、さらに充実したセミナーになるように思います。来年もまた合宿セミナーが開催される事を願いつつ、企画運営にたずさわった皆様への感謝の言葉で締めくくりたいと思います。楽しい 3 日間をありがとうございました。来年もよろしくお願いたします。

-----  
日本福祉大学情報社会科学部

助教授 唐沢かおり

統計のエンドユーザーにもかかわらず、学生に

統計を教える立場に立たされている身にとっては、「これであなたも統計の鉄人になれる」というキャッチコピーは、「塗るだけでスリムになる」と同じくらい魅力的…というわけで、大きな期待を抱いて参加した。丁寧な解説、充実したプレゼンテーションと、講師の先生方の話しはどれも「あきさせない」内容であった。エンドユーザーにはちょっと厳しいレベルの話もあったが、それでも、講義終了後の久々に頭を使ったという満足感（自己満足？）は心地よかった。しかし、「手軽に分析できればそれが一番」というふらちな私（そういう参加者の方は少数派だったのでしょうか？）にとっては、セミナーの成果といえば、とりあえず「すぐに役に立ちそう」な若干の断片的知識…ということになってしまうのだろうか？それではわざわざ大阪まで2泊3日もかけてお出かけた意味がない。「統計は本当は裏にもっといろいろ複雑なことがあってきちんと使おうとすると大変である。しかし、繰り返し使っているうちに何とかなるかもしれない」という勝手な思いこみを得て、「鉄人への道」は遠いがそれなりのエンドユーザーになることは可能であると悟ったことに意味を見出そう（と自分を納得させる）。セミナー終了後の今、統計手法についてちゃんと勉強しないと…という気持ちが半分、いろいろ全部わかろうとするのは大変だから、とりあえず使えるものは強引に使っちゃえ…という気持ちが半分。ちなみに、懇親会は、久しぶりに大阪のこてーとしたのりを楽しませていただきました。お友達も100人とは言いませんが数人できました。主催者の皆様、及び講師の先生方、ありがとうございました。

-----

## 平成 11 年度第 1 回理事会議事録

——— 見本のため省略します ———

## 日本学術会議報告

第 4 部会員 吉村 功

2月18, 19の両日と、4月20～24日に学術会議の各部会、総会、各種委員会が開かれました。この中で、統計学関連学会の皆さんにお伝えしておいた方がよいところを報告します。

### 1. 科学研究費補助金のこと

来年度、つまりこの秋に申請する文部省科学研究費補助金（科研費）の審査や支給の仕組みが変わります。大きな変化は、基盤研究、萌芽的研究、

奨励研究の3研究種目が文部省から日本学術振興会に移管されることです。移管される部分は、昨年度で9万件約800億円分です。文部省に残るのは、特別推進研究、特定領域研究、特別研究促進費、研究成果公開促進費、創成的基礎研究費、COE形成基礎研究費、地域連携推進研究費などの、約500億円分です。これらの名前から想像できると思いますが、「普通の科研費は学振に移管」です。これに伴い審査体制が変わります。今までは第1段審査が3人、第2段審査が1人で審査をしていたのですが、これからはその2倍の、6人、2人で審査が行われます。（あなたも審査員を頼まれるかもしれませんよ。）つまり、6人がすべての申請に点数をつけ、その点数を尊重しながら2人が、順位をつけ、最終的には学振が採否の決定を行う、こととなります。透明性と公平性を高めるため、採択されなかった理由の問い合わせにも応じるとのことです。

審査員は学術会議が2倍の人数の候補者を推薦し、学振がいろいろなバランスを考えて最終決定をします。バランスというのは、同じ大学から多人数の審査員が出ないこと、特定の地域たとえば東京に審査員が偏らないこと、審査員が男性や高齢者に偏らないこと、同じ人が2年を超えて審査員にならないこと、などです。分科細目の721——「複合領域、統計科学」の審査員候補は、統計学研究連絡委員会が関連学会研連と相談をしながら候補者を選んで推薦します。科研費は今年も約135億円増加したということですので、複合領域の「統計科学」や経済学の「経済統計学」等に、どんどん申請をして下さい。若い方や私立大学の方には億劫がる方がいますが、研究を担っているという自覚のためにも応募をお勧めします。採択の際には過去の実績も重要ですが、創造的、挑戦的なことも高く評価されます。若い研究者は実績が少なくても優遇されます。その課題での研究発表をするときは、海外出張の費用を支出できます。グローバル化が進んでいる近年では海外発表が普通ですので、これに科研費を利用してください。

### 2. 統計学研究連絡委員会（統計研連）

前回にも報告しましたが、シンポジウムを開くということで、準備を進めています。すなわち、3月9日に統計研連の会合を開き、7月の日本統計学会の折に「21世紀に向けての統計科学の課題と方向——新しいパラダイムの構築」という表題のシンポジウムを開く方針を定めました。その具体化のため、4月9日に幹事会（委員長と岡

太彬訓幹事、加納悟幹事)を開き、細部を検討しました。現時点では7月31日の午後に岡山理科大学で開催するという方針で、講演者を依頼し、関連学会に共催の依頼をしています。現在お願いしている講演者は、甘利俊一、狩野裕、刈屋武昭、柴田里程、宮野悟、宮川雅巳、吉野諒三、柳川堯、の諸先生です。企画がより詳しく固まったら、各学会を通じて、あるいは web site を利用してお知らせしますので是非ご参加下さい。

### 3. 学術会議寸評

行政改革の一環として、学術会議も組織替えの可能性にあります。現在、日本の科学技術政策については、科学技術会議という組織が諮問を受け、答申をしています。これには学者の代表以外に産業界や法律界の代表も入っています。学術会議での議論は行政に直結していません。現在進行している行政改革でも「総合科学技術会議」が設置されて政策に助言を与えますので、学術会議は、議論と調整はするけど、という存在になっています。これをそのままにしておくかそれともっと政策に影響を与えるような組織にするかといったことが、今後の日本学術会議が直面する状況のようです。内部改革、という声も出ていて、改革論議が行われています。どんな結論になるかは全く分かりません。日本学術会議は、いわば学者の国会です。各学会はまず学術団体としてそこに登録をし、会員推薦者を出し、会員候補を出すことで意向の反映を図ります。その過程で登録を認めるかどうかが一昨年トラブルになりました。学術団体としての登録を認められなかった団体が訴訟を起こしたのです。最近その判決がおりて原告敗訴、つまり日本学術会議の決定への異議は認められないという司法判断が出されました。しかし、この問題はまだ後を引きそうです。現在の学術会議は第17期で、来年7月に新たな第18期がスタートします。その会員選出の手続きがすでに始まっています。まず推薦人と候補者の決定が秋に行われるでしょう。その際に、各学会から積極的な意欲のある方が推薦されてくるようお願いいたします。現17期の会員210人についての統計は次のようになっています。会員の属性が集中的過ぎないように、考慮の材料にさせていただくのが良いと思います。

出身大学：東大101人(48%)、京大28人(13%)

年齢構成：60歳以上が184人(88%)

男性208人(99%)

## 平成 14 (2002) 年度共同主催国際会議の募集について

1. 日本学術会議では、毎年、国内で開催される国際会議について、閣議による了解を経て国内学術研究団体と共同主催しております。昭和28年度以降これまでに共同主催を行った会議は、169件を数えます。

平成10年度に開催した共同主催国際会議は次の8件です。

- 第20回ソフトウェア工学国際会議
- 第2回世界構造制御会議
- 第32回宇宙空間科学COSPAR総会
- 第3回バイオメカニクス世界会議
- 第16回国際植物成長物質会議
- 第9回国際寄生虫学会
- 第3回アジア太平洋細胞生物学会
- 第49回国際電気化学会

2. 共同主催の対象となる会議は、次の要件を満たす必要があります。

- (1) 母体団体(国際学術団体等)において、国際会議の日本開催が決定したものであること。
- (2) 母体団体の協力が得られること。
- (3) 国際会議に対応する学術研究団体に設置される運営のための委員会が、既に国際会議の計画及び準備を進めていること。
- (4) 国外参加国10か国、国外参加者50人以上となること明らかであること。
- (5) 国際会議の構成、予算、主要題目及び日程等が適当であること。
- (6) 国内外の代表的科学者等の参加が予定されていること。

3. 以上の要件を満たす会議について、年間8件を上限として共同主催することとしております。

その際、日本学術会議は、次の経費を予算の範囲内で負担いたします。

- (1) 国際会議委員会委員の会議出席旅費
- (2) 国外へのサーキュラーの発送に関する経費
- (3) 会議場借料・損料
- (4) 会議における主要外国人滞在費
- (5) レセプション開催経費のうち、国外参加者相当分

4. ただ今、平成14(2002)年度開催分の会議について申請を受け付けております。申請を希望される場合は、速やかに提出していただく書類がありますので、下記までお問い合わせください。

なお、申請書の提出期限は平成11年12月末日ですが、できるだけ余裕をもって提出してください。

【問い合わせ先】日本学術会議事務局学術部情報  
国際課国際会議係

TEL:03-3403-6291 (内線 2460, 2461),

FAX: 03-3403-1982

E-mail:i254@scj.go.jp

【日本学術会議ホームページ】<http://www.scj.go.jp>

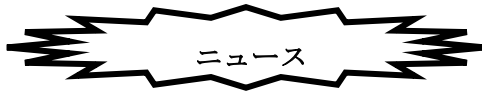
Tel.03- 3433- 2543

E-mail: 事務局: ren.associates@ma3.justnet.ne.jp

プログラム委員会:jsai-pc@kdel.info.eng.osaka-cu.ac.jp

人工知能学会ホームページ:

<http://www.soc.nacsis.ac.jp/jsai/>



## THE 1998 THOMAS L. SAATY AND JACOB WOLFOWITZ PRIZES

The 1998 Jacob Wolfowitz Prize has been awarded to Professor **Yasunori Fujikoshi** (Department of Mathematics, Hiroshima University, Hiroshima, Japan) for his paper "A Method for Improving the Large-Sample Chi-Squared Approximations to Some Multivariate Statistics," which the judges stated is "a clever, original and deep paper in an area of great theoretical interest which uses innovative transformations in its developments."

Professor Fujikoshi's paper which won the Wolfowitz Prize appeared in MSI-2000: MULTIVARIATE STATISTICAL ANALYSIS IN HONOR OF PROFESSOR MINORU SIOTANI ON HIS 70TH BIRTHDAY (ISBN 0-935950-40-0) edited by Takeshi Hayakawa (Hitotsubashi University), Makoto Aoshima (Tokyo Gakugei University), and Kunio Shimizu (Keio University).

## 関連学会等カレンダー

※日本学術会議の Web Page で、学術研究団体の学術研究集会等開催予定一覧を見ることができます。情報がやや古い場合がありますが、参考になります。

<http://www.scj.go.jp/syukai.html>

### <学会大会等>

#### ☆人口知能学会 全国大会(第 13 回)

会 期:1999 年 6 月 15 日(火)~ 18 日(金)

会 場:早稲田大学国際会議場

(東京・新宿区西早稲田)

照会先: 1999 年度人工知能学会全国大会事務局

〒105-0013 東京都港区浜松町 2-12-14

第 2 日化ビル「連企画」気付

#### ☆日本言語学会 第 118 回大会

会 期:1999 年 6 月 19 日(土), 20 日(日)

会 場:東京都立大学(東京都八王子市)

照会先: 日本言語学会

Tel : 075-415-3661, Fax: 075-415-3662

#### ☆第 2 回認知科学国際会議 (ICCS'99) / 日本認知科学会第 16 回大会 (JCSS'99)

会 期:1999 年 7 月 27 日(火)~30 日(金)

会 場:早稲田大学国際会議場

照会先: inquiry-ICCS99@sccs.chukyo-u.ac.jp

iccs99org@etl.go.jp

認知科学会ホームページ

<http://rosetta.sccs.chukyo-u.ac.jp/jcss/>

#### ☆日本統計学会 第 67 回大会

会 期:1999 年 7 月 28 日(水)~31日(土)

7/28 はチュートリアル・セミナー

会 場:岡山理科大学

照会先: 日本統計学会ホームページ

<http://sunyht2.ism.ac.jp/ABOUT/AboutJSS.html>

大会ホームページ

<http://hakuto.mis.ous.ac.jp/jss67/>

#### ※共通テーマのタイトル

- 金融・証券データの分析
- マイクロエコノメトリックの発展
- パネルデータの経済分析
- 環境統計の経済分析
- 統計学研究の後継者養成
- 医薬品の特徴の統計学的記述
- 生体時系列データの非線形モデリング
- 多変量解析の新しい方向
- 情報幾何と統計的方法
- 因果推論の統計モデル
- 官庁統計の正確性
- 新技術と官庁統計
- 統計科学情報の高度利用
- 離散データの解析

#### ☆日本行動分析学会 第 17 回大会

会 期:1999 年 7 月 29 日(木), 30 日(金)

会 場:北海道医療大学

照会先: 北海道医療大学看護福祉学部臨床心理学教室

Tel : 01332-3-1217, Fax: 01332-3-4440

#### ☆日本教育心理学会 第 41 回総会

会 期:1999 年 8 月 25 日(水)~27 日(土)

会 場: 甲南女子大学  
神戸市東灘区森北町 6-2-23  
照会先: 総会準備委員会  
〒673-1494 兵庫教育大学学校教育学部内  
Tel/Fax: 0795-44-2112  
大会ホームページ  
<http://www.edu.hyogo-u.ac.jp/kyoshin99/Index.html>

### ☆ 日本教育学会 第 58 回大会

会 期: 1999 年 9 月 3 日(金)~5 日(日)  
会 場: 玉川大学工学部  
名古屋市昭和区八事本町 101-2  
照会先: 大会実行委員会(玉川大学研究室棟内)  
Tel, Fax 042-739-8282

### ☆ 日本心理学会 第 63 回大会

会 期: 1999 年 9 月 5 日(日)~7 日(火)  
会 場: 中京大学・名古屋学舎  
名古屋市昭和区八事本町 101-2  
照会先: 大会準備委員会  
〒466-8666 中京大学文学部心理学研究室内  
E-mail: [jpa99@cnc.chukyo-u.ac.jp](mailto:jpa99@cnc.chukyo-u.ac.jp)  
Tel: 052-832-2151(代表), 052-835-7160(心理)  
Fax: 052-835-7144(心理事務)  
大会ホームページ  
<http://www.chukyo-u.ac.jp/~jpa99/>

### ☆ 日本性格心理学会 第 8 回大会

会 期: 1999 年 9 月 9 日(木)~10 日(金)  
会 場: 育英短期大学  
照会先: 大会準備委員会  
〒466-8666 中京大学文学部心理学研究室内  
E-mail: [jpa99@cnc.chukyo-u.ac.jp](mailto:jpa99@cnc.chukyo-u.ac.jp)  
Tel: 052-832-2151(代表), 052-835-7160(心理)  
Fax: 052-835-7144(心理事務)  
大会ホームページ  
<http://www.chukyo-u.ac.jp/~jpa99/>

### ☆ 第 42 回自動制御連合講演会

主催学会: 計測自動制御学会(幹事学会), 他  
期 日: 1999 年 11 月 6 日(土)~7 日(日)  
会 場: 日本大学理工学部船橋校舎[船橋市習志野  
台 7-24-1,  
TEL(047)469-5278 FAX(047)469-9342]  
照会先: (株)計測自動制御学会 連合講演会係  
〒113-0033 東京都文京区本郷 1-35-28-303  
TEL. (03)3814-4121, FAX.(03)3814-4699  
E-mail: [rengo@sice.or.jp](mailto:rengo@sice.or.jp)

### <研究会・シンポジウム等>

#### ☆ 第 14 回西日本国語国文学データベース研究会(14th DB-West)

日 時: 1999 年 6 月 6 日(日)13:20~17:00  
会 場: 大阪樟蔭女子大学 新館 円形ホール

(近鉄奈良線小阪駅下車徒歩 3 分)  
照会先: DB-West 事務局  
〒577-8550 大阪樟蔭女子大学日本語研究センター内  
Tel: 06-6723-8297, Fax: 06-6723-8302  
E-mail: [db-west@x.age.ne.jp](mailto:db-west@x.age.ne.jp)  
ホームページ:  
<http://www.age.ne.jp/x/oswcjlr>

### ☆ コンピューター・ビジュアルゼーション・シンポジウム '99

日 時: 1999 年 6 月 25 日(金)11:00~17:00  
会 場: TEPIA ホール(東京都港区)  
主 催: 日経サイエンス  
照会先: 株式会社コスモピア[CVC 事務局]

Tel: 03-3401-0611, Fax: 03-3401-5500  
E-mail: [cvc@cosimopia.co.jp](mailto:cvc@cosimopia.co.jp)

※1「サイエンス」,2「エンジニアリング」,3「流体」,4「医学・生物」,5「数学・統計」,6「情報」,7「教育コンテンツ」,8「VR, アーティスティック CG」,9「可視化システム・ソフト」,9「その他」のエントリー分野から, 16 論文作品をを査読審査の上発表。コンテストでは発表作品の中から賞を授与。

### ☆ 第 2 回情報論的学習理論ワークショップ

(Information-Based Induction Sciences: IBIS'99)

会 期: 1999 年 8 月 26 日(木), 27 日(金)  
会 場: ラフォーレ修善寺(静岡県伊豆修善寺)  
共 催: 情報理論とその応用学会, 電子情報通信学会

照会先: 浮田 善文  
〒169-8555 新宿区大久保 3-4-1  
早稲田大学 理工学部 経営システム工学科  
松嶋研  
E-mail: [ibis-sec@matsu.mgmt.waseda.ac.jp](mailto:ibis-sec@matsu.mgmt.waseda.ac.jp)  
ホームページ:  
<http://matsu.mgmt.waseda.ac.jp/ibis99/>

※情報理論とその応用学会, 電子情報通信学会共催の特別企画であり, 情報理論, 統計学, 統計物理学, 計算統計学, 機械学習, ニューロ, 応用(画像, 言語, 複雑系, 生体系, データマイニング, 金融工学 etc)などの緊密な結び付きに焦点をあてて, 知識情報処理の新しい方向性を模索する, 学際的なワークショップ。

招待講演: J. Rissanen(IBM), 池田思朗(科技団さきがけ研究 21), 今井浩(東大), 江口真透(統数研), 駒木文保(東大), 柴田里程(慶大), 本田学(京大)  
一般セッション, 特別セッション「モデル選択と知識情報処理の将来」

### <チュートリアル類>

#### ☆ 日本統計学会 チュートリアル・セミナー

日 時: 1999 年 7 月 28 日(水)  
(同学会第 67 回大会の前日)  
午前・午後各 1 テーマ



会 場: 岡山理科大学

テーマ: 1) グラフィカル・モデリング

(オーガナイザ: 宮川雅巳(東工大))

2) 共分散構造分析

(オーガナイザ: 狩野裕(大阪大学))

照会先: 日本統計学会事務局

Tel 03-3442-5801, Fax: 03-3442-5924

日本統計学会ホームページ

<http://sunyht2.ism.ac.jp/ABOUT/AboutJSS.html>

## ☆統計数理研究所公開講座

「統計解析入門」

日 時: 1999 年 7 月 5 日(月)~9 日(金)

10 時~16 時(1 日 5 時間, 計 25 時間)

会 場: 統計数理研究所講堂

港区南麻布 4-6-7

申込受付: 5 月 24 日(月)~6 月 11 日(金)

定 員: 先着 100 名

照会先: 公開講座担当

Tel: 03-5421-8720, 03-3446-1501(代表)

<http://www.ism.ac.jp/>

内 容: 統計解析のための標準的な手法を, 実  
際的な問題を通して平易に解説する。

## 公募情報

以下の公募は, 応募期限の早い順に並んでいま  
す。応募資格等, 研究者等の公募情報の詳細につい  
ては, 文部省学術情報センターの「研究者公募情報  
提供事業」(NACSIS-CIS)の下記 WEB ページも参照し  
て下さい。

<http://nacwww.nacsis.ac.jp/index.htm>

ただし, 以下には, 同ページに含まれない情報も掲  
載される場合があります。

### ☆ 国際基督教大学教養学部

——— 見本のため省略します ———

### ☆ 小樽商科大学商学部

——— 見本のため省略します ———

### ☆ 関西学院大学社会学部

——— 見本のため省略します ———

### ☆ 新潟国際情報大学 情報文化学部

——— 見本のため省略します ———

### ☆ 滋賀大学経済学部

——— 見本のため省略します ———

## 博士論文・修士論文紹介

### <博士論文概要>

東京工業大学 博士(学術)

中畝 菜穂子: The Experimental and Survey Study on  
Risk Perception and Risk Communication

論文要旨: 本論文は, 実験及び調査研究に基づき,  
リスクコミュニケーションが成立するための条件  
について検討を試みたものである。リスクコミュ  
ニケーションの目的はリスクに関する正確な情報  
を伝えることによって, リスクに関する公正な認  
知を形成することであり, リスクに関する情報を  
獲得することでリスクの認知が変化することが暗  
黙の前提となっている。

本論文では, 情報の獲得に伴うリスク認知の変  
化の可能性及び, リスク認知の変化に影響を与え  
ると考えられる要因について検討を行った。これ  
らの検討を通じて, リスクコミュニケーションを  
円滑に進めるためには受け手の特性を考慮したリ  
スクコミュニケーションが必要であることが示さ  
れた。

東京大学 博士(学術)

齊藤聖子(久保聖子): Structural Modeling Approach  
and Process Tracing Approach to the Model of  
Decision Making

論文の要旨: 本論文では意思決定プロセスに焦  
点をあて, 意思決定行動を時系列的にとらえ, 時  
間の経過に従って変容するプロセスを表す数理モ  
デルの提案を行った。実験から, 意思決定は代替  
案を直感的に評価する段階, 各属性を網羅的に評  
価する段階, 網羅的評価に基づき最終的な代替案  
の決定を行う段階, の三段階を経て行われ, 各段  
階における代替案の評価プロセスは全く異なる  
という結果を得た。

この知見から, 本論文では各段階におけるプロセ  
スモデルを提案し, プロセスの変容を明確化する  
ことに成功した。このことにより, 代替案の評価  
結果から, 決定者がその時点で意思決定プロセス  
のどの段階であるかを予測し, 決定者の認知状況  
を明確に把握することが可能となった。

筑波大学大学院 博士(理学)

津田美幸: An Unbiased Test for the Bioequivalence  
Problem

飛田英祐: 統計的区間予測とその応用

東京理科大学大学院 博士(情報科学)

鈴木淳一: Quasi-Independence and Conditional  
Symmetry Models for Incomplete 2x2x2 Contingency  
Tables

榎井剛志: Generalized Measures of Departure from  
Marginal Homogeneity for Contingency Tables with  
Nominal Categories

小林正明 : Robustness of the Tests for Dimensionality in Multivariate Analysis of Variance

高橋文明 : On the Behavior of Asymptotic Distributions of Sample Roots in Multivariate Analysis of Variance

#### <修士論文概要>

広島大学 修士 (数学)

齋藤寛之: 次元が 3 以上の場合における順序制約の下での平均ベクトルの均一性に関する種々の検定法の比較

佐藤由佳: 経時測定データに対する共分散構造の誤特定化の影響

田中孝司: 未知共分散行列をもつ多変量正規分布の順序制約の下での平均ベクトルの均一性に対する検定統計量の上側確率の上限について

野口貴史: 成長曲線モデルにおける公差確認法の改良

広島大学 修士 (教育学)

浦田和彦: Combinatorial Properties for Orthogonal Arrays and Balanced Arrays

大本千尋: 情報量規準の散布度一モデル選択における分散の役割を中心として

広島大学 修士 (工学)

中岡 範之: バイズ型ウェーブレットシュリンケージによるノイズの低減

立教大学 修士 (社会学)

朝日弓未: Friendship Tie Prediction: A Case of Timely Transformation

大竹延幸: 消費社会の進展と消費行動

河野康成: A Design for Contradictory Terms in Boolean Approach: Head and Tail Analysis

#### 編集後記

行動計量学会の参加申し込み締め切りが近づいて参りました。まだ申し込みをされていない方は、お早めにお申し込みください。

会報を会員相互のコミュニケーションの場としても、活用して下さい。会員の皆様からの御意見など、お待ちしております。情報をお寄せ下さい。原稿の送り先は次の通りです。

(会報作成担当: 山岡和枝・前田忠彦・山下智志)

#### 日本行動計量学会 WEB ページ

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/bsj/index.html>

#### 学会誌論文投稿先

##### 和文誌「行動計量学」

〒305 茨城県つくば市天王台 1-1-1

筑波大学臨床医学系産婦人科

久保武士

TEL&FAX: 0298-53-3071

e-mail: sigemitsu@md.tsukuba.ac.jp

##### 欧文誌「Behaviormetrika」

〒153 東京都目黒区駒場 3-8-1

東京大学教養学部心理学教室

繁樹算男

TEL:03-5454-6267, FAX:03-3485-0481

e-mail: kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp

#### 入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。

詳しくは、

〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9

学会センター C-21

(財)日本学会事務センター内

日本行動計量学会係

TEL: 03-5814-5810

FAX: 03-5814-5825

まで、お問い合わせ下さい。

#### 行動計量学会会員数

(1999年5月現在)

正会員	948人
準会員	45人
名誉会員	6人
賛助会員	19社

#### 会報原稿送付先

〒173-8605 東京都板橋区加賀 2-11-1

帝京大学医学部衛生学公衆衛生学教室

山岡 和枝

TEL: 03-3964-1211(内 2178)

FAX: 03-3964-1058

e-mail: kazue@med.teikyo-u.ac.jp

#### 日本行動計量学会第 27 回大会 web ページ

<http://www.f7.ems.okayama-u.ac.jp/~bsj99/>